|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| **日本K-ABCアセスメント学会****第25回大会発表抄録集執筆要領** |  | 余白は上下左右20㎜、題目・副題・発表者氏名（所属）を書く。1段目のところは，文字数43文字，行数38行で書くこと。 |

1行目　1行目には題目（18ポイント：MSゴシック体）

2行目　2行目には副題がある場合に（14ポイント：MSゴシック体）

3行目　1行空ける

**4行目　発表者氏名（所属）12ポイント、筆頭発表者には〇をつける。MSゴシック体**

**5行目　発表者が多い場合には，ポイント数を調整し、２段(4から5行目)に収める。**

6行目　1行空ける。

以下，2 段で文字数 23 文字，行数 50 行，文字 10.5 ポイント：MS 明朝体で書くこと。

※図表を含め，８ページ以内にまとめる。

**１．対象児者（※見出し:MSゴシック体，太字）**

在籍する学校・学級，学年または年組，診断名（医療機関で診断を受けている場合），性別。

**２．主訴（※見出し：MS ゴシック体，太字）**

対象者や養育者，学級担任などからの主訴を記載する。

**３．背景となる情報（※見出し：MSゴシック体,太字）**

※イニシャルや生年月日など，対象者を特定できる 恐れのある個人情報は記載しない。関係機関名は「A 病院」，「B教育センター」のように実名を伏せる。

１）成育歴および現在（または，指導開始時）まで

の経過（※見出し：MS ゴシック体，標準）

 周産期や出生時，乳幼児期から現在までの経過につ いて，対象者の発達面，教育面，医療面などの情報 について，時系列で記載する。

２）家庭環境（※見出し：MS ゴシック体，標準）

家族構成，養育に対する特記事項を記載する。

３）学校や家庭での現在（または，指導開始時）の 様子（※見出し：MS ゴシック体，標準）

対象者の現在の様子について，関係者から得られた 情報及び観察により得られた情報について，学習面， 生活面，心理面，発達面などを記載する。

**４．アセスメントリスト（※見出し：MS ゴシック 体，太字）**

実施した検査（KABC-Ⅱ，WISC-Ⅳなど）のリストと実施時の生活年齢を記載する。

**５．KABC-Ⅱの結果と解釈（※見出し：MS ゴシッ ク体，太字）**

※検査結果の図表（「Table〇KABC-Ⅱ検査結果」

「Fig.○KABC-Ⅱ検査結果」など）を挿入（各尺度と下位検査の標準得点や NS，NW，PS， PW が記載されたもの）

１）検査時の様子（※見出し：MSゴシック体，標準）

検査における入室から退室までの行動，各下位時に

おける行動，その他の特記事項を記載する。

２）カウフマンモデルによる検査結果と解釈（※見 出し：MS ゴシック体，標準）

(1)認知総合尺度と習得総合尺度の比較

両者の標準得点，信頼区間，およその能力水準，有 意差の有無，それらの解釈などを記載する。

(2)認知尺度の個人間差

認知尺度の標準得点，信頼区間，およその能力水準， NS，NW，それらの解釈などを記載する。

(3) 認知尺度の個人内差

認知尺度における PS，PW，まれな差の有無，それらの解釈などを記載する。

(4)認知尺度間の比較

認知尺度間の得点差，それらの解釈などを記載する。 (5)認知検査間の比較

認知尺度の下位検査における NS，NW，PS，PW などに基づき,それらの解釈などを記載する。

(6)習得尺度の個人間差

習得尺度の標準得点，信頼区間，およその能力水準， NS，NW，それらの解釈などを記載する。

(7)習得尺度の個人内差

習得尺度における PS，PW，まれな差の有無，それらの解釈などを記載する。

(8)習得尺度間の比較

習得尺度間の得点差，それらの解釈などを記載する。 (9)習得検査間の比較

習得尺度の下位検査における NS，NW，PS，PWなどに基づき,それらの解釈などを記載する。

(10)認知総合尺度と習得尺度の比較，認知総合尺度 と算数尺度検査の比較，及びその解釈などを記載する。

(11) 選択ステップ：クラスター分析

クラスター分析の結果およびその解釈（使用してい ない場合は省略可）などを記載する。

３）CHC モデルによる検査結果と解釈（※見出し： MS ゴシック体，標準）（※事例によっては省略可） (1)CHC 総合尺度

CHC 総合尺度の標準得点，信頼区間，およその能力水準などを記載する。

(2)CHC 尺度の個人間差

CHC 尺度の標準得点，信頼区間，およその能力水準，NS，NW，それらの解釈などを記載する。

(3)CHC尺度の個人内差

CHC 尺度における PS，PW，まれな差の有無，それらの解釈などを記載する。

(4)CHC 尺度間の比較

CHC 尺度間の得点差，その解釈などを記載する。 (5)CHC 検査間の比較

CHC 尺度の下位検査について，NS，NW，PS，PWなどに基づき，それらの解釈などを記載する。

|  |
| --- |
| ※事例発表では，「カウフマンモデル」 「CHC モデル」のどちらかだけでも良い。  |

**６．その他の検査と解釈（※見出し：MS ゴシック 体，太字）**

KABC-Ⅱ以外に実施した検査がある場合に記載し， 検査結果の図表の添付が望ましい。

※検査問題や正答を掲載しないよう，厳重に注意す る。

**７．総合解釈と指導方針（または「支援方針」※以下同様）（※見出し：MS ゴシック体，太字）**

１）総合解釈（※見出し：MS ゴシック体，標準） KABC-Ⅱや他検査，行動観察，背景情報などから得られた解釈のまとめを記載する。

２）指導・支援の指針（※見出し：MS ゴシック体，標準） 総合解釈に基づく指導・支援方針を記載する。

**８．については「パターンA 」と「パターンB 」のどちらかを選択して記載する。**

|  |
| --- |
| **８．パターンA****（※見出し：MS ゴシ ック体，太字）** （※小見出しは適宜変更可） **指導・支援経過および指導・支援結果**開始時の状態，指導した課題，指導期間や指導頻度・時間，指導経過，指導後の状態，その他の日常生活での変化などについて記載する。  |

**９．まとめと今後の課題（※見出し：MS ゴシック 体，太字）** （※「考察」などに適宜変更可）

**パターンA：**指導・支援の要点と，その根拠となった検査結果の解釈について簡潔にまとめる。また，十分に指導できなかった点や，次に取り組むべき課題について記載する。

**パターンB：**取り組みの成果を簡潔にまとめる。そして，取り組みの中で不十分であった点や，次に取り組むべき課題について記載する。

**１０．倫理的配慮（※見出し：MS ゴシック体，太字）**

諸検査の実施にあたり，事前に対象者（及び対象者 が未成年の場合にはその保護者）に十分に説明し了 解を得ていること，また，同者に本発表及び抄録集 への掲載の了解を得たことを記載する。

**【文献】（※見出し：MS ゴシック体，太字）**

※参照した文献は，活用した箇所が読者に分かりや すいように，本文中に記載する。

※引用した文献は，本文の最後に「文献」としてリ ストを添付する。書き方は，以下の通り。

［雑誌の場合］

著者名，発行年，：題目，雑誌名，巻（号）数，論文所在ページの順に記載する。

［単行本の場合］

著者名，発行年，書名，発行所の順に記載する。

※その他［図表の書き方］

図・表には番号及びタイトルを付け，図のタイトル は図の下，表のタイトルは表の上に記載する。

|  |
| --- |
| **８．パターンB****（※見出し：MS ゴシ ック体，太字）**（※小見出しは適宜変更可）**Iフィードバックの実際**紙面によるフィードバックの内容を記載する。できれば，口頭によるフィードバック（フィードバック面接）の進め方も取りあげる。**Ⅱ多職種連携の方策** どういう職種とどのような連携を行うのかについてできるだけ具体的に記載する。※Ⅰ・Ⅱのどちらか，または両方について記載。 |